

米国人若年成人層、41.4%は実家から独立後も両親から経済的支援を受ける
「半独立」状態（12月1日）

ノースカロライナ州立大学（North Carolina State University）社会学助教のアンナ・マンゾニ氏（Anna Manzoni）は、米国における若年成人層による両親への経済的依存に関する研究論文「世代間での資金の受け渡しと若年成人層による実家の出入り（Intergenerational Financial Transfers and Young Adults' Transitions In and Out of the Parental Home）」を、11月26日にオンライン版「Social Currents」誌で発表した。本論文は、「2008年米国青年・成人の健康に関する長期的調査（2008 National Longitudinal Study of Adolescent to Adult Health）」からのデータを分析したものである。これによると、25～32歳の若年成人層の41.4%は、両親と同居はしていないものの経済的支援を受ける「半独立」状態にあることが明らかにされた。この傾向は、大学に進学しなかった者や経済的に余裕のない家庭で育った者と比較して、経済的に裕福な家庭に育った4年制大学進学者に強く見られ、特に大学の学費を自費で支払った者にこの傾向が強かったという。また、大学在学中に両親から経済的支援を受けていた者は、ある時点において両親の実家に戻る可能性が高いことも明らかにされた。

なお、本論文の要約は、

<<http://scu.sagepub.com/content/early/2015/10/11/2329496515616822.abstract>>から閲覧可能。

Inside Higher ED, *Study: 40 Percent of Young Adults Receive Financial Help From Parents*

<https://www.insidehighered.com/quicktakes/2015/12/01/study-40-percent-young-adults-receive-financial-help-parents>